

僕の父は、公共施設の工事に関わる仕事をしている。生徒数の増加に伴う校舎の増築や老朽化した市営住宅の建て替え、公共施設の暖房設備の更新などを行っているそうだ。どれも市民のための大切な仕事であり、父がそのような仕事をしていると初めて聞いたときは驚いた。そして父をととても誇らしく思った。

ある日、仕事で疲れて帰ってきた父がふと口にしたことがある。

「限られた税金の中でやりくりは本当に大変だなあ。」

それを聞いて疑問が浮かんできた。一昨年に十パーセントに上がった消費税。サッカーシューズを買った時の消費税を見て、この金額ならソックスも買えるなどと思い、損した気持ちになったことがある。それから両親の給料から差し引かれる所得税や住民税、他にも会社の収入から納められる法人税など、国民はたくさんの税金を納めているのではないか。それなのに税金が足りない、税金が限られているなんてどうしてだろう。気になり、父に詳しく話を聞くことにした。そして父の苦労を、税金を使う人の思いを深く知った。

父の仕事は、市の建物を新しく建て替えたり補修をすることである。学校や保育園、交流センターなど、市内にある公共施設などの建物の数はとても多い。本当ならたくさんお金をかけて、最新設備の整ったより使いやすいものにしたと父は言った。しかし限られた予算、限られた税金の中でやりくりしなければならない。そこで父が行っているのは、取りかかる建物の優先順位を考えたり、かかる費用を削減できる部分を探したりみんなで話し合うこと。そして最も欠かせない安全に配慮した建物や工事をする工夫をしているそうだ。日々頭を悩ませることが多いが、限られた税金の中でできるだけ良いものを建て、市民のために、市を活性化するために、一生懸命頑張りたいと教えてくれた。

父のそんな思いを聞いてたくさんのことを気づかされた。限られた税金をうまく使って、市は様々な施設を市民に提供し、市を豊かにしてくれている。だからこそ、国民は税金をしっかりと納めなければならない。僕は今まで税金に反対していたが、父の話を聞いて、自分達が納めた税金は自分達のためのものになっていることを実感し、とても安心した。そして、税金を使う人が常にその貴重さを感じ無駄なく、最善の使い方を考えているということ学んだ。

限られた税金の中で市民の生活を豊かにしている市のため、国のため、そして僕たち自身のためにも税金の大切さや重要さを忘れずにいたい。そして自分も将来働くようになったらきちんと税金を納め、子どもたちにもその意義を伝えていきたい。